

本年度の共通課題に関して、宿題委員の各氏から、次のような視点・問題点が提出されましたのでご検討下さい（順不同）。

村落生活の「主体的再編成」

という課題への私の視点

東京農工大学 高橋明善

一、資本主義の運動法則の農村・地方社会への貫徹を認めることは基本的に重要であるが、農村・地方社会は、その法則的必然性に基いてのみ形成されるものではない。

二、農村・地方住民の歴史形成への主体的能動的参加の領域、場面が存在することを認めるときに「主体的再編成」というテーマが現実性をもってくる。

三、自然的条件、経済法則、歴史的条件、主体的条件が総合されて、特定の農村・地方社会に固有な個性的な歴史形成の形態があらわれる。

四、この視点にたつて、「主体的再編成」というテーマに歴史的主体的条件が社会と歴史の形成にどのようにかわりあっているか、かわりの可能性はどのように存在するかという課題の解明の期待をよせたい。

五、そして、個性的な社会と歴史の形成を個性的なままにおくのではなく形態論（経済法則にもとづく社会形成が本質論を構成する）の段階にまで昇化させてゆくことを究極のねらいとしたい。

六、以上の研究は、研究者にとつては、知的好奇心の客観的な対象にすぎないとしても、農村・地方住民の日々の生存にとつて重要な意味をもつ身近な社会を通して、人間と社会への洞察力と主体的エネルギーを与える課題にも答えることになると思う。

七、村落研究は地方社会研究の中に位置づけられねばならない。農村住民は地方産業、地方文化の土壌の中でも生活しているからである。従つて、村落は、それをとりまく地方の社会と歴史の構造と形成史とのかかわりの中でとらえられる必要がある。地方社会はその歴史、産業、蓄積された技術、文化の伝統をふまえてたえざる継承と再生をくり返しながら、個性的な歴史を形成しているのである。

八、以上の視点をふまえて村落の社会と歴史の「経済法則」の必然性と相対的に独自の「主体的」「文化的」形成過程を考えたい。

九、村研年報のここ数年の報告も素材にしたい。